

かほく ワークシート

ふたば未来学園中高 カフェ開店



オープンしたカフェでコーヒーを入れる生徒たち

地域愛 召し上がれ

あすへ

東日本大震災

福島県ふたば未来学園中高（広野町）の新校舎にある地域協働スペース「双葉みらいラボ」で17日、生徒たちが運営する「カフェふう」がオープンした。ラボの一般開放も開始。生徒や地域住民らの交流を通じ、東京電力福島第1原発事故後の地域課題を解決する活動の場づくりを目指す。

カフェは高校の社会起業部の1、2年生8人を中心に運営。オリジナルブレンドのコーヒーなどを提供する。農業を学ぶ生徒の手作りケーキやプリンも販売。初日から生徒の家族らが訪れて会話の花を咲かせた。生徒は昨年夏からコンセプト策定などに着手。近隣のカフェや大手コーヒーチェーンの協力を得て技術や接客の研修を重ねてきた。チームリーダーの2年生は次美優さん（16）は、ようやく迎えた開店に「頑張ってきた良かった。地域に愛されるカフェが一番。高校生姿を多くの人に見てもら

福島・広野 住民交流 協働の場に

「いたい」と話した。同校に新設された一般社団法人たんぼほが経営に当たる。丹野純一校長が代表理事を務め、是次さんら生徒2人も理事に就いた。同校は、原発事故を背景にした人口減や風評被害といった課題に向き合う探究型学習が特徴。丹野校長は「多様な人たちと自然に触れ合う中から新しい発想や取り組みが生まれることに期待したい」と話す。

同県楡葉町から訪れた主婦鈴木泰子さん（67）は「若い人と接する場はありがたい。いろいろな経験をした大人がおり、いっしょに話が出てくるところ」と話した。

カフェの営業は月一金曜午前11時～午後6時。火曜定休。授業中などはたんぼほのスタッフが運営に当たる。

問題

- ①この記事で最も印象に残った部分に線を引きましょう。
- ②あなたが自分の学校で「やってみたいこと」と「その理由」、「地域への波及効果」を考え、友だちと意見交換しましょう。

（中学校、高校／ホームルーム・総合学習の時間）

出題者から

「秋深き隣は何をする人ぞ」という松尾芭蕉の有名な句があります。「隣の人は何をしているのだろう」と思いを寄せることが、社会へ一歩踏み出すきっかけとなります。そして「自分だったらこうするんだけどな」と考えることで、自分の世界はどんどん広がっていきます。さあ、皆さんと同じ若い世代のアイデアに耳を傾けてみませんか？（日本新聞協会NIEアドバイザー・名取北高英語科教諭 大槻欣史）

6月30日こども新聞7面ワークシート模範解答

今回は下記のような質問で人によって答えはそれぞれなので、模範解答なしでお願いします。

- ① 今回の記事で最も印象に残ったところにアンダーラインを引きましょう。

- ② あなたが自分の学校で（校内で）「やってみたいこと」と「その理由」、そして「地域への波及効果」を考え、グループ内で意見交換しましょう。